



©読響

ウィーン国立歌劇場などで活躍するドイツ屈指の名匠

常任指揮者

セバスティアン・ヴァイグレ

Conductor= Sebastian Weigle

ドヴォルザーク
交響詩「真昼の魔女」
作品108

DVOŘÁK: Symphonic Poem
"The Noon Witch", op. 108

モーツァルト
ピアノ協奏曲 第23番
イ長調 K.488

MOZART: Piano Concerto
No. 23 in A major, K. 488

ドヴォルザーク
交響曲 第8番
ト長調 作品88

DVOŘÁK: Symphony No. 8
in G major, op. 88

名匠ヴァイグレが、自然への愛にあふれた傑作交響曲を披露！



©GRZEDZINSKI

シヨパン・コンクール第3位
世界から注目を浴びる新星
ピアノ

マルティン・ガルシア・ガルシア

Piano= Martín García García

※当初の予定から変更になりました

読売日本交響楽団
第652回 名曲シリーズ

2022

6.16 木 19:00

サントリーホール

Popular Series No. 652
Thursday, 16 June 2022, 19:00
Suntory Hall

S¥7,600 A¥6,600
B¥5,600 C¥4,100

読響チケットセンター
0570-00-4390
(10時-18時・年中無休)

<https://yomikyo.or.jp/>

ドヴォルザークの森に佇み、モーツァルトの宇宙に浸る。

名匠ヴァイグレが振るドヴォルザークの傑作交響曲&交響詩

ショパン・コンクール3位の新星ガルシア・ガルシアが共演!



セバスティアン・ヴァイグレ (常任指揮者)

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス『影のない女』を振り、雑誌『オーパングヴェルト』の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。同歌劇場は『オーパングヴェルト』の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。

常任指揮者セバスティアン・ヴァイグレは、ドイツ音楽を得意なレパートリーとしているが、東欧やロシアものでも定評がある。今回取り上げるのは、モーツァルト作品とドヴォルザーク作品。歌劇場でキャリアを築いたマエストロは、モーツァルトもドヴォルザークも「オペラ作品を通して深く共感している作曲家」と語る。ヴァイグレは、オペラの発想で旋律を歌うように奏で、生き生きとした音楽を生み出すだろう。

メインに演奏するのは、ドヴォルザークの交響曲第8番。小鳥のさえずりなどの自然が描写され、のどかな田舎風の素朴さを持った名曲として広く親しまれている。ボヘミアの民俗的なメロディと快活なリズムが特徴だ。トランペットのファンファーレで始まる終楽章では、ヴァイグレのタクトが金管楽器から華麗なサウンドを引き出し、弦楽器をうねるようにドライブさせ、熱いフィナーレを築くはずだ。

マルティン・ガルシア・ガルシア (ピアノ)

昨年のショパン国際コンクールで世界を魅了したスペインの新星。1993年、スペイン生まれ。5歳でピアノを学び始め、マドリードのレイナ・ソフィア音楽学校を卒業。ニューヨークのマスネ音楽院の修士号も取得。スペイン国内やモスクワを含む海外の数多くのピアノコンクールで入賞。アレクセイ・エフ、ヴォロドス、アチュカロラピアノの巨匠からも高い評価を受けた。2021年8月にはクリエヴァンド国際ピアノコンクールで優勝。同年10月の第18回ショパン国際コンクールでは第3位と最優秀協奏曲賞を受賞して国際的な注目を浴びた。ピアノを弾きながら歌う姿や、その陽気なキャラクターも話題になった。現在ニューヨークに在住し、ジェローム・ローズに師事。今回、読響に初登場する。

演奏会の冒頭には、ドヴォルザークの交響詩「真昼の魔女」をとりあげる。晩年のドヴォルザークが、ボヘミアの詩人エルベンによる「民話の花束」を題材に作曲した交響詩の一つ。ボヘミア情緒あふれる牧歌的なメロディに、次第に悲劇を予感させる緊張感が漂い、ドラマティックな音楽が展開する。この曲でもオペラを得意とするヴァイグレの真価が発揮されるだろう。

2曲目には、注目を浴びるスペインの新星マルティン・ガルシア・

ガルシアをソリストに迎え、モーツァルトのピアノ協奏曲第23番を披露する。彼は、昨年10月のショパン国際コンクールで第3位と最優秀協奏曲賞を受賞。その独創的な演奏と陽気で茶目つきたっぷりな人柄でも一躍人気となった。読響初登場となる今回、ガルシア・ガルシアは、古典派のピアノ協奏曲の“大傑作”とされる第23番で、どのようにメロディを弾き、どんな世界を作り出すのだろうか。ご注目いただきたい。

読売日本交響楽団 第652回 名曲シリーズ

2022年6月16日(木) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合がございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017